



## 実務家教員として教職大学院生諸君に望むこと

神居 隆 (学校マネジメントコース長)

秋田大学教職大学院が開設されて早半年が過ぎました。一期生の皆さんにおかれましては、教育環境についても、教育内容についても不便をお掛けしておりますが、教職員と共に創り上げていくという精神で臨んでいただきたいと思います。お願いしているところであります。

教職大学院は平成20年度から全国各地に設置されてきましたが、平成28年度には、多くの教職大学院が開設されるなかで秋田大学でも教職大学院の設置に踏み切りました。教職大学院では共通内容の20単位と教職実践(実習)10単位及びリフレクションなどが必修となっており、全国の教職大学院も共通ですので、各大学で特色作りに力を入れているところです。本学においては、いわゆる「秋田型」アクティブラーニングに関する科目を中心として、教科内容を選択的に包括したカリキュラム開発に力点を置いた科目構成となっていることと、学校マネジメントコースが管理職養成に特化していることが特色となっています。

教職大学院の教員には、40パーセントの実務家の配置が義務づけられていますが、秋田大学では専任教員15名のうち8名が実務家教員であります。さらにリフレクションコーディネーター2名が客員教授として参画しております。合計10名の実務家の内訳を延べ数で示すと、小学校籍2名、中学校籍4名、高校籍3名、特別支援籍1名となっており、学校教員時代に専門的に指導していた教科も6教科にわたっております。また、県もしくは市の指導主事経験者9名、社会教育主事経験者1名、管理主事経験者5名、

校長経験者7名、教頭経験者2名と、学校現場で教員に対する指導の業務に当たっていた、教育行政経験も豊かで極めて指導力の高いベテラン教員であります。

秋田大学の教職大学院にはもう一つ大きな特色があります。本学では教育文化学部所属の90余名の研究者教員全員が、それぞれの分野で大学院の授業に出講しております。教職大学院生の皆さんは、その豊かな知識と高いレベルの学問的見識に直接触れることができます。その知的資産を学校教育の場でどのように生かしていくことができるか、そのことを研究する場が教職大学院であると理解しております。自らの興味と関心のアンテナを高くして、皆さん方ではできない授業スタイルの構築に結びつけていただきたいと思います。そのために、実務家教員の招聘に当たっては、研究者教員と教職大学院生につなぎの役割を果たしていくことができるよう、教育現場の様々なシーンに経験を持つ教員の協力を得ることに腐心いたしました。

私もかつては”習うより慣れろ”と指導され、経験の中で自分のスタイルを作り上げることに努力してきましたが、幅広い知的資産の中で自分を振り返ってみたいと切望した時期がありました。院生の皆さんにおかれましては、今がそのチャンスであると思っておりますので、研究者教員と実務家教員の先生方に相談しながら、新しい時代のリーダーたり得る教員として育ててほしいと考えております。

## 発達教育・特別支援教育コース紹介

藤井 慶博 (発達教育・特別支援教育コース長)

後期の授業が始まり早一ヶ月が過ぎようとしている。教職大学院における中心的な科目である教育実習(後期)も始まった。

本コースの一分野である「特別支援教育」を

一言で表すとすれば、私は「(一人一人の)ニーズに応じた教育」であると考えている。これは特別な支援が必要な子どもたちのみならず本コースで学んでいる院生にも大切なことであろう。

そのため、教育実習においても院生一人一人のキャリアや大学院における研究テーマを十分に把握し、修了後の進路に資するよう一人一人のニーズを聞き取り、受入れ校とも協議を重ねて実習の計画を作ってきた。

現職教員院生の教育実習を例に紹介させていただく。Aさんは授業のユニバーサルデザインをテーマにしているため、研修校は小学校とし、教科教育と特別支援教育の融合といった観点から、通常学級と特別支援学級両方での幅広い実習を受け入れていただいている。病弱教育をテーマとしているBさんは、秋田きらり支援学校を研修校としているが、同校に配置されている秋田県病弱教育アドバイザーの協力のもと、全県域にわたり病弱教育の現地調査を行っている。

特別支援教育のノウハウを生かした地域支援（特別支援学校のセンター的機能）がテーマのCさんは、栗田支援学校における実習に加え、Cさんの指導担当である同校の教育専門監が定期的に派遣されている秋田県発達障害者支援センターにおける相談支援の実習も組み込んでいただいている。

これだけダイナミックな実習ができるのも、教職大学院の趣旨を理解し、全面的に協力してくださる秋田県及び秋田市の教育委員会並びに受入れ校のおかげであり深謝したい。我々指導教員としては、理論と実践の往還による確かな学びにつながるよう、巡回指導とリフレクションの充実に努めてまいりたい。

## 平成28年度学校組織マネジメント指導者養成研修に参加して

### 浅野 博之（学校マネジメントコース現職1年次）

このたび、9月5日（月）から9月9日（金）の5日間の日程で、独立行政法人教員研修センターで行われた「平成28年度学校組織マネジメント指導者養成研修」へ参加する機会をいただいた。本大学院からは4名の現職教員が参加し、校種や役職を超えた参加者との意見交流や著名な講師の講演を聴く好機を得ることができ、大変貴重な研修会となった。

初日の開講式では、高岡信也教員研修センター理事長より挨拶があり、その中で本研修プログラムは教員研修センターの柱と位置づけられており、地域とともにある学校、チーム学校、教員の資質能力向上の3つの柱に基づいた研修である、という説明を受け、身の引き締まる思いであった。



開校式の様子

本研修の目的は、「学校組織マネジメントの理論を身につけ、的確な校長のリーダーシップと経営理念のもとに戦略を構築し、学校内外の資源を活用することができるようにする。そのうえで、各地域や学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図ること」であることから、これからの学校はチームとして組織全

体で学校運営に関わる必要性が求められていることを再認識すると同時に、新学習指導要領のキーワードである「カリキュラムマネジメント」と「アクティブ・ラーニング」を一体的に推進させるためには、校長のリーダーシップはもとより、教職員一人ひとりのマネジメント力が大きな鍵となることを理解した。

研修内容については、演習を多く取り入れた、いわゆるアクティブ・ラーニング型をベースとして、講義（文部科学省・大学教授・民間企業経営者等）や実践発表を通して理解を深める構成であった。具体的には、初日は現状の把握、2日目はマネジメントの基礎、3日目は戦力の構築、4日目は資源の活用、そして5日目は指導者として、という組み立てからなり、学校組織マネジメントに関する知識・理解が「面」から「点」へと焦点化できるプログラム構成であった。さらに、グループ演習や協議においても活発な意見交換が行われ、貴重な研修の場となったことは言うまでもない。

本研修での学びが、今後の教員としての大きな財産になると確信をしている。



グループ演習の様子



## 岩手研修旅行に参加して

岩澤 郷子（カリキュラム・授業開発コース1年次）

9月28日から30日の2泊3日の日程で岩手研修旅行に参加しました。この研修旅行は、1日目は岩手大学の教職大学院の皆さんとの学習交流会、2日目は被災地学校である山田町立船越小学校、大槌町立大槌学園への訪問、3日目は被災地である陸前高田市の現状視察という日程で行われました。

今回の研修旅行で訪問した岩手県内の被災地は、大きな堤防が新たに作られ、復興が進められている光景と津波の爪痕が残されたままの建物とが併存していました。昨年度まで在学していた大学が被災地から比較的近いところがあったため、同級生の実家が仮設住宅だったり、部活指導で関わらせていただいていた小学校に被災地から転校してきた子どもがいたりするなど、以前から様々な場面で東日本大震災で被災された方々と関わることはありましたが、私はこの研修旅行に参加するまで被災地を訪問したことがありませんでした。今回の研修旅行で実際に被災地へ足を運んだことにより、今まで感じていた以上に地震や津波の恐ろしさを実感させられました。

また、被災地学校訪問では、各校において熱心に取り組まれている「復興教育」や「防災教育」に関する話をお聞きしました。この学校訪問を通して私は「防災教育」についてもっと学んでいく必要があると感じました。東日本大震災において秋田県は比較的被害は少なかったものの、またいつ地震や津波が起こるか分かりませんし、予測できない自然災害などが発生する可能性は十分にあります。万が一の事態の時に、子ども

たちが自ら考え行動し、自分の命を守るなど危機管理の力を身に付けることができるよう考えていきたいと強く思いました。

また、私たちと同じく今年から創設された岩手大学の教職大学院の皆さんとの交流会においても、互いの教職大学院における取り組みや各県の教育課題等について語り合うことができ、とても良い刺激を受けました。今後も、同じ東北の教職大学院生としてたくさんかかわりをもてたらと思います。



船越小学校からの風景



大槌学園訪問

## 授業に向かう情熱と気概

～理科CT研修会に参加して～

富樫 朋哉（カリキュラム・授業開発コース現職1年次）

『予想通りであれば結果は〇〇になる』実験の視点を確かめると、子どもたちは一斉に探究スイッチをオン！結果をイメージしながら、真剣な眼差しでガラス管の印を見つめます。

9月15日に中央地区理科指導力向上研修会に参加してきました。公開された小学校の授業、VDで拝見した中学校の取組から授業改善につな

がるたくさんのヒントをいただきました。またグループ協議やパネルディスカッションを通して、授業のアイデアや理科の系統性について学ぶことができました。

授業の様子に話を戻します。本時は、水の体積変化の学習でした。圧巻だったのは、授業終了1分前に児童が振り返りを発表したことです。

振り返りの発表は普通のことだと思われるかもしれませんが、児童のつぶやきを生かした課題設定に始まり、予想・実験・結果のまとめ・考察・本時のまとめ・振り返りと学習の流れを端折ることなく展開し、どの活動においても子どもが主体的に学習に臨んでいたことを追記すれば、授業の完成度とすばらしさが伝わるのではないのでしょうか。

改めて授業を分析すると、今後に生かしたい点が見えてきました。一つは日常の事象を思考の柱に据えていたこと（飲みかけのペットボトルを冷やすとつぶれる）。もう一つは活動ごとに視点を明確にしていたことです。子どもが問題を見だし、教師が授業をコーディネートすることで、科学的な思考が広がる充実した45分に

なることを再確認しました。そして何より心が奪われたのは、授業を通して感じられた理科CT教諭の情熱と気概です。周到に準備された実験器具や的確な発問がこの授業を生み出す源になっていました。正に「授業で勝負」。秋田の教員のあるべき姿を見ることができました。

後期の実習では、一日中理科の授業に関わる機会をいただきました。授業を実践する時間もたくさん設定していただきました。実習を通して、理科におけるアクティブ・ラーニングの視点を分析し、教職大学院が目指す力の一つ「カリキュラム・授業デザイン力」を高めたいと考えています。私も授業で勝負！CT研修会の学びを生かし、実習先の子どもたちと理科の授業作りに励みたいと思います。

## 免許状更新講習との合同開催について

佐藤 修司（教職実践専攻長）

教員免許状更新講習として、9月10日（土）に「学校づくりと教職員の課題」、9月24日（土）に「危機管理と教職員の課題」を実施し、その際、10日は「学校・学級経営の理論と実践」の4回分、24日は「学校危機管理の理論と実践」の4回分を合同開催としました。更新講習は、同じ内容で、11月26日に「学校づくりと教職員の課題」、12月3日に「危機管理と教職員の課題」を実施し、同じく教職大学院の同じ授業と合同開催となります。更新講習の募集定員は各講座とも15名で、教職大学院の科目は必修科目であるため、全院生22名の都合をきいて、おおよそ半々ずつになるように割り振りました。最終的に全体で9月10日は23名、9月24日は24名となりました。

更新講習と教職大学院科目の合同開催には、利点として、  
○教職大学院生には、より幅広い年代、校種の現職教員とともに学ぶ機会が得られるとともに、普段の週1、90分の細切れではなく、4回分のまとまった時間での学びができる。副次的には、雪の季節の年明けの授業を回避し、教職大学院の時間割上の余裕をつくれる。

○更新講習参加者には、教職大学院の授業や、院生の様子を知ることができ、教職大学院入学の宣伝的効果があるとともに、現場には少なくなっている若手教員への実践知の継承の方策を、学部卒院生との学びによって獲得することができる。

といったことが挙げられます。

両講習とも、午前中に私が中心に講義とワークショップを行い、午後は学校マネジメントコ

ースの現職教員院生が中心になってワークショップを実施しました。担当した院生はすでに教員研修センターでのマネジメント講習（3週間など）の既修者であり、そこで経験したワークショップ等を、今度は実施者側になってその方法を考案し、実施してもらうこととしました。

更新講習参加者のアンケート内容を紹介します。

<学校づくりと教職員の課題>

・講話、演習、協議とバランスのとれた講習内容だったし、時間の区切りもテンポが良く、集中して活動に取り組むことができた。また、学校現場の状況に即した内容だったので、この講習を活用し、自校の教育活動の一助になれるよう、働きかけを強化したいと思った。

・学校づくりのための目標の立て方や手立てを講話していただき、現場をこれまでとは異なった視点で見つめることができると思います。グループ協議で異なった校種の方々、院生の方々もいらしたので、違った世界が見られて興味深かったです。

・多くの演習を取り入れてくれたおかげでとても満足した講習だった。ストマスの方の参加もよかった。



### <危機管理と教職員の課題>

・現在、教職から離れている私にとって、この危機管理の講義は非常に面白く興味深い内容だった。現代の教育環境、学校環境においては全くかけ離れたものではなく、いつ身近に感じる問題になってもおかしくはないことが理解できた。教育現場に復帰できるときまで心に留めておきたいと思う。

・ケースメソッドやロールプレイングは大変参考になった。その立場に立って考えることがとても大切なことが実感できた。グループを作ったの協議や演習はいろいろな考えを聞けて、とても参考になった。

・久々に学生の方々と一緒に勉強することができとても刺激になりました。貴重な機会をいただきありがとうございました。



## 教職大学院紹介

### ○学校マネジメントコース

今年度から新設の学校マネジメントコースには4名が所属しています。全員現職教員で、小学校籍2名、高校籍1名、特別支援学校籍1名です。学校組織マネジメントに関する講義を中心に、授業研修や特別支援教育、実習等、多岐にわたる学びを通して、マネジメント力の構築を目指しています。

教職大学院の他のコースの皆さんと一緒に学ぶ機会も多く、刺激をもらいながら、反面メンターとしての責任も担っています。

すべて、マネジメントの視点を大切にしながらの大学生活です。

### ○カリキュラム・授業開発コース

現職教員3名・学部卒10名の総勢13名が所属しています。校種や専門教科・分野は多種多様です。とても個性的なメンバーで、普段は暖かな雰囲気。しかし、課題や追い込み時の空気はピリッと冷たい…良い意味で寒暖差の激しいコースです。「三人寄れば文殊の知恵」と言いますが、13名集まると一体何の知恵に匹敵するのでしょうか。そしてその力が一挙に発揮できる日は来るのでしょうか。乞うご期待ください。

### ○発達教育・特別支援教育コース

小学校籍1名、特別支援学校籍2名の現職教員と学部卒2名が所属しています。校種間等の違いはありますが、「子どもたちのために」という思いは、みな同じです。共生社会の形成を目指したインクルーシブ教育の推進に向け、担当教員の先生方とのリフレクションを充実させるとともに、日々、他コースの院生たちとも学びの交流を図っています。



## 主な行事予定について

○秋田大学教職大学院発足記念フォーラム

日 時：11月11日（金）

秋田大学60周年記念ホール

○千葉大学教職大学院教員の秋田大学教職大学院視察

日 時：11月14日（月）～16日（水）

○雄和小学校・中学校訪問（学校マネジメントコース）

- 日 時：11月29日（火）
- 教職大学院FD（予定）  
日 時：1月11日（水）
  - 岩見三内小学校・中学校訪問  
日 時：1月17日（火）
  - 教育学研究科第二次入試  
日 時：1月21日（土）
  - 教育実践研究支援センターフォーラム  
日 時：1月28日（土）
  - 秋田県合教育センター教育研究発表会  
日 時：2月9日（木）～10日（金）
  - 模擬授業フェスティバル  
日 時：2月16日（木）
  - 教職大学院中間発表会（予定）  
日 時：2月23日（木）

### 9月～10月の行事等について

- |                   |   |          |
|-------------------|---|----------|
| 9月 2日（金）          | 秋田県育成協議会                                    | 秋田県庁第二庁舎 |
| 9月 4日（日）～9月 9日（金） | 教員研修センター学校組織マネジメント指導者養成研修<br>教員研修センター（つくば市） |          |
| 9月 8日（木）          | 第5回研究科委員会                                   |          |
| 9月11日（日）          | 秋田大学大学院3研究科設置記念講演会・式典・祝賀会                   | 秋田ビューホテル |
| 9月12日（月）          | 第7回教職実践専攻会議                                 |          |
| 9月15日（木）          | 秋田県コアティーチャー研修会（理科）                          |          |
| 9月26日（月）          | 岩手研修旅行事前研修                                  |          |
| 9月28日（水）～9月30日（金） | 岩手研修旅行                                      |          |
| 10月 4日（火）         | 省察実習部会会議・第8回教職実践専攻会議                        |          |
| 10月14日（金）         | 日本教育大学協会教育実習研究部門会議                          | 富山大学     |
| 10月15日（土）         | 日本教育大学協会研究集会                                | 富山県民会館   |
| 10月22日（土）         | 秋田県学力向上フォーラムin横手                            |          |
| 10月25日（火）         | 第9回教職実践専攻会議                                 |          |
| 10月27日（木）         | 秋田県コアティーチャー研修会（国語）<br>秋田県中高合同研修会            | 秋田高等学校   |
| 10月28日（金）         | 秋田南SGHカンファレンス                               | 秋田南高等学校  |

